

【評価基準 A：すべて3,0以上、B：2,5以上がある、C：2,5以下がある】

二、三世纪时，中国以

重 点 目 標	評 価 結 果						考察と課題、今後の方策
	中間値 2.5		最高値 4.0				
	よい 4 点	ややよい 3 点	ややよい 3 点	ややよい 3 点	よい 4 点	よい 4 点	
	ややよくない . . 2 点	ややよくない . . 2 点	ややよくない . . 2 点	ややよくない . . 2 点	ややよくない . . 2 点	ややよくない . . 2 点	
1 確かな学力の定着・向上	項 目	教職	生徒	保護	地域	評価	○ 自主学習ノートの活用方法の助言を行うことを、学力向上推進計画 2 の具体的な取組とし、5 教科と技能を伴う教科に分けて数値目標を設定した。5 教科は目標を達成できた教科は 30 %にとどまったものの、すべての教科が学力向上推進計画 1 より数値を上げることができた。技能を伴う教科では、すべての教科が目標を達成することができた。さらに、学習委員会がテストごとに教師の助言を掲示したことで、生徒の関心も高まり、教師の助言を活用する生徒は 80 %を超えている。今後も学力向上の取組として継続させたい。 ● 話合い活動は、全教科の授業で行われており、授業の学習形態として定着している。しかし、話合い活動後の全体での発表に I C T機器を活用が十分とは言えない。今年度の取組を見直し、来年度の学力向上の取組につなげたい。
	教育課程 教③	3.5				A	
	研修 教⑥⑦	3.2				A	
	授業改善 教⑧ 生①② 保⑪	2.9	3.5	2.9		B	
	個別指導 教⑨ 生③④ 保⑪	3.1	3.3	2.9		B	
	学習習慣 教⑩ 生⑤⑥ 保④	2.6	3.5	2.8		B	
2 豊かな心の育成		教職	生徒	保護	地域	評価	○ 道徳教育については、各学年が共通理解を図り、授業を進めることができた。今後は、リレー道徳を取り入れ実施していきたい。 ○ 昨年度から、学級生徒会や専門委員会の時間を伸ばし、充実した学級での話合いや専門委員会の活動が行われるようになった。 ● 今後は、生徒会役員の公約を実現し、全校生徒が実り多い生徒会活動を行えるよう、より緻密で計画的な生徒会運営が必要である。 ● 人権・同和教育が評価を下げた原因を明確にし、教職員の研修等をより充実させ、生徒のさらなる人権意識向上を図り、系統的・継続的な学習になるようにしていきたい。
	生徒会活動 教⑪ 生⑦	3.1	3.6			A	
	学校行事 教⑫ 生⑧ 保⑫	3.4	3.8	3.4		A	
	道徳教育 教⑬生⑨保③地②	3.3	3.5	3.3	3.5	A	
	学級活動 教⑭ 生⑩⑪⑫	3.3	3.5			A	
	人権同和教育 教⑮ 生⑭⑮	3.1	3.4			A	
3 生徒指導の充実 (健やかな体)		教職	生徒	保護	地域	評価	○ いじめの問題対しては、未然防止、早期発見・早期対応を心掛けた。今後も学校全体でチームで対応し、誰もが安心して過ごせる学校環境を作っていきたい。 ○ 挨拶について、地域の方から「声を掛けてくれてうれしい」という声を多く頂いた。校内だけでなく、校外でも行動できる生徒が育っているので、今後も継続して指導していきたい。 ● 今後、部活動の地域移行化が進められていくが、部活動の取組への評価が高い本校で、同じように子どもたちへの活躍の場が提供できるのか不安である。学校・地域・行政が連携し、しっかりとした受け皿ができるかが課題であると考える。
	生徒理解 教⑯生⑯	3.4	3.0			A	
	保護者信頼 教⑰ 保⑧⑨	3.3		3.2		A	
	いじめ・不登校 教⑱ 保①	3.4		3.4		A	
	清掃指導 教⑲生⑰	3.3	3.8			A	
	挨拶 教⑳生⑱保②地④	3.6	3.5	3.1	3.7	A	
	交通安全 教㉑生⑲保⑤地①	3.4	3.8	3.4	3.4	A	
	生活習慣 生㉒保⑥⑬		3.4	3.1		A	
	部活動 教㉓生㉓保⑬地⑧	3.2	3.8	3.4	3.8	A	

重 点 目 標	評 価 結 果 中間値 2.5 最高値 4.0						考察と課題、今後の方策
	よい・・・４点 ややよくない・・・２点			ややよい・・・３点 よくない・・・１点			
4 教育目標 ・信頼される学校づくり ・家庭・地域との連携 ・教育目標 ・家庭地域との連携と信頼 ・P T A活動との連携 ・情報発信、受信 ・地域活動への参加 ・学校評価	項 目	教職	生徒	保護	地域	評価	○ 概ね高評価であった。引き続き連絡メールの活用、ホームページの細やかな更新を行って、丁寧な情報の提供をしていきたい。 ● 地域行事にも積極的に参加するようその都度呼び掛けを行っているが、多様性の昨今、画一的に参加出来ないのが現状であることを知っていただきたい。
	目標 教①②	3.4				A	
	連携信頼教④⑤保⑧⑨地⑤⑥	3.2		3.2	3.5	A	
	P T A活動 教③	3.2				A	
	情報発受信 教④ 保⑩地⑦	3.1		3.2	3.5	A	
	地域活動 教⑤	3.4				A	
5 服務等 ・明るい職場 ・資質の向上 ・報・連・相、協働態勢 ・教育公務員の自覚		教職	生徒	保護	地域	評価	○ 職場の雰囲気は、格段にポイントがアップした。お互いが立場を理解して、行事等の運営に協力・支援して関わっていった結果であろうと思われる。 ○ 服務については、今年度も幾度か県や教育事務所からの通知・通達を回覧して、教職員に指導をしてきた。このことが、各自「他山の石」として考え良い評価と現れたことと推察できる。
	明るい職場 教⑥	3.3				A	
	資質向上 教⑦	3.3				A	
	協働態勢 教⑧	3.3				A	
	公務員自覚 教⑨	3.4				A	
6 管理等 ・施設設備の安全管理充実 ・文書処理 ・情報管理 ・会計管理 ・校務分掌の適正化		教職	生徒	保護	地域	評価	○ 施設設備については、校舎の老朽化にともない到る処に修繕の必要性がでてきている。予算等も関係してくるので、町教委とも相談の上、対応していきたい。 ○ 校務分掌については、すべての教員が均等にということは難しいが、お互いの強みを生かして互いに補完出来るように考えていきたい。年度当初にしっかりと議論し、分担したい。
	施設設備 教⑩⑪⑫	2.9				B	
	文書管理 教⑬	3.3				A	
	情報管理 教⑭	3.4				A	
	会計管理 教⑮	3.6				A	
	校務分掌 教⑯	2.6				B	
全体のまとめ	「真実を求め 希望に生き 実行に徹せよ」の校訓、また、「心豊かで、活力に満ちた実践力のある生徒」の教育目標のもと、明るく活気に満ちた学校づくり、地域に根ざした信頼される学校づくりを目指している。昨年度に比べ、全体的に評価が高くなったことは、目標を明確にして努力・実践したことがある程度の成果をなつて表れてきたためと考える。 今後の課題としては、①授業の中でI C T機器を効果的に活用していく。②生徒理解と信頼関係作りを進めるとともに、不登校生徒への適切な対応を図る。③挨拶、清掃、交通安全指導の徹底に努める。④地域との連携、信頼関係の継続に努める。などが挙げられる。結果の公表がゴールでなく、次年度につなげていくよう全教職員で実践していきたい。						